

福島・浪江町 本間副町長に聞いた

「故郷の再生」の行く末は？

東京電力福島第一原発は、双葉郡大熊町と双葉町にまたがっている。すぐ北側にある浪江町は、立地町でないという理由で、原発事故時に連絡も避難情報もなく、被害が拡大した。2月10日、東久留米市福島県人会主催の講演会で浪江町が迎った7年について副町長の本間茂行さんの話を聞いた。
(片桐美佐子)



震災その日、情報なき避難

浪江は双葉郡8町村のうち最大の町で、震災前は人口2万1千人、海と山の幸に恵まれた自然豊かなところだった。3月11日、震度6強の揺れが5分に及ぶ。津波に襲われた請戸地区では、小学生は山側に逃げて全員助かったが、650世帯が流され、182人が亡くなった。

続いて起こった原発事故が浪江町を襲う。電源喪失、非常用冷却注水不能。その夜3時圏内に屋内退避、翌12日早朝には10時に拡大して避難指示。しかし浪江町には国や東電からの情報は全くなく、テレビ報道で初めて知り、大変混

乱した。この朝は前夜に暗さと寒さで救助できなかった請戸地区に再救助に行く予定だった。泣く泣く避難したが、助けられたかもしれない命を思うと、今でも悔やまれる。

12日夜、20時圏内に避難指示が拡大。続いて14日までに1号機、3号機が爆発。放射能は浪江町に沿うように北西に流れたが、情報もなく、何度も移動してわざわざ線量の高い方へと避難してしまっている。

震災関連死が直接死を上回る

原発が立地した大熊町や双葉町では政府がバスを出して避難したのである程度まとまったが、浪江の場合は町民が分散し、役場も一年半に4回も移転し、コミュニティの維持が困難になった。

2万1千人全ての町民が避難。津波で亡くなった182人の直接死に対し、転々と避難するうちに体調を崩して亡くなった人は407人にも上った。さらに要介護者は、震災前841人が、1490人に増加。生きがいや力がなくなってきたからだと思う。

一部避難解除と帰還

2017年3月31日、海側の町域2割が避難解除になった。そこには8割の人が住んでいた。

避難先で新しい生活に移ったため登録住民は減ったが、逆に世帯数は増えた。大家族が仮設生活等で分断されたからだ。今年1月現在の帰還者は482人で、震災前の2.3%。20行政地区中、6地区には誰も帰ってきていない。

昨年9月の住民アンケート(有効回答率53.6%)によると、「戻らないと決めている」と答えた人は52.6%。戻りたい人は17.5%、判断がつかない人は28.2%。戻りたい人には戻れる環境を、戻らない人についても支援が滞らないように、その両方が必要だ。帰還のために必要な支援としては、買い物不便、健康や介護、被ばくの不安、働き場所の不足等があげられていた。役場内に仮設プレハブの商店街、診療所は1カ所ある。

浪江町の再建をめざして

農業では、新たにトルコキキョウやリンドウの花栽培をして東京に出荷、成果を上げている。

住宅については、浪江町民のための公営住宅を福島県内と浪江町内の両方に建設(建物7000棟は地震やインシシ被害で荒れ果て、3000棟が解体を希望)。

震災後、小中学生は全国に分散した。浪江で学校を再開しても既に新しい生活があり、難しいとは思いますが、保育所を新設したり、最先端の教育環境を用意している。産業開発としては、東北電力の原発予定地だった沿岸部50秒を譲

り受け、新たな産業の構築をめざしている(福島イノベーション・コースト構想)。具体的にはドローン・ロボットの研究、太陽エネルギーから水素を製造、電気自動車のバッテリーを再製品化する工場などだ。復興記念公園の建設も予定。「いいいの村なみえ」を復興し、ログキャビンタイプの仮設住宅を宿泊施設として移設する計画もある。

馬場有町長が「町おこし」に取り組んでいた矢先の東日本大震災。町民8000人と放射能の雲が流れた北西地区に避難してしまったことは、国や東電、とりわけSPFEDIの情報公開があれば避けられたかもしれない。当時の記者会見で怒りを抑えきれない町長の姿を見た。心労ははかり知れない。町長はいま、入院中だ。

7年が過ぎ、半分以上の町民が「戻らないと決めた」なかで、浪江町は「町おこし」を模索している。若い副町長、本間茂行さんのお国訛り混じりのトークは、福島を応援する会場をあたためた。前向きな言葉は気持ちを明るくするが、産業開発や教育、生活環境の整備などの復興計画は、帰還をする人のためのものだ。

福島原発事故が収束していないことは、未だ「原子力緊急事態」が解除されていないことから明らかである。「帰宅困難区域」に囲まれた環境で暮らす不安は拭えないと思う。財産を奪われた町民への加害責任は国や東電にあるはずだが、自治体が実際の対応に立たされる。

「戻らない」町民の生活の復興は、まだ見えない。